穴が目立つ景観パターンを選ぶ際には注意が必要です。





■背景と目的

護岸ブロックは形状、サイズ、積み方等の条件により、護岸 表面に模様が形成されます(以下、景観パターン)。既存の 護岸ブロックを見ると谷積、布積など伝統的な積み方に 見られる景観パターンだけでなく、千鳥配置、階段状、穴が 目立つタイプなど近年見られるようになった景観パターンも あります。これらの護岸ブロックの景観パターンは、河川景観 に対して様々な印象を与えると考えられます。

しかし、これまで、護岸ブロックの景観パターンは感覚的な 評価に留まっており、定量的な評価がありませんでした。そこで、 既存の代表的な護岸ブロックの景観パターンへの影響評価を行い、 河川景観への選好性について検証を行いました。ここで、選好性 については、河川景観に調和するかどうかを表しています。

■方法

まず、既存の護岸ブロック 110 種類程度の景観パターンを 類似した10個のグループに分類しました(表1)。

次に、河川景観に対する評価を行うため、周辺の風景を 同じにした上で印象を比較できるように、同一の風景写真 (都市部、郊外部)に護岸ブロックの景観パターンを当てはめた フォトモンタージュを作成しました(図1)。作成したフォト モンタージュを用いて、個々の景観パターンに対して、どの ような印象を持つのかをアンケート調査を行いました。

■結果と考察

アンケート調査を基に分析した結果、景観パターンは 「調和性」(好き、親しみやすい)と「形状性」(規則的な、 表情が乏しい)で特徴づけられることが分かりました。また、 調和性が低い護岸ブロックの景観パターンは、都市部、郊外部 の背景の違いによらず、特に「穴が目立つグループ」(Cの グループ)である傾向が示されました(図1)。

C のグループに分類される種類の護岸ブロックは主に植物の 繁茂を目的としているブロックに多く見られます。表面に 開口部や緑化スペースがあると、植物の繁茂に寄与しますが、 穴が目立つことで河川景観に調和しない問題点があるよう です。護岸の表面を被う植物は景観上、自然環境の面から 重要とされています。今後は、植物の繁茂を目的としている ブロックに着目し、どの位植物が護岸ブロックを被えば景観に 調和し、自然環境が良好となるかについて調べていきたいと 考えています。

表 1 分類した護岸ブロックのグループ

		パターン
1	Α1	一般的な間知積み
	A2	間知石積み風
	A'3	玉石積み風
2	В1	野面石積み風
	В2	縦横の目地と模様の両方が煩いグループ
	В3	縦横の目地が目立ち、表面の模様があまり見えないグループ
	В4	階段上で横の線が目立つグループ(布積み)
3	C1	千鳥模様で飛び出して見えるグループ
	C2	千鳥模様で穴が開いているように見えるグループ
	C3	穴が目立つグループ

- ① 主に小型の護岸ブロックの谷積みに見られるパターン
- ② 主に大型の積みブロックに見られるパターン
- ③ 主に植物の繁茂を目的としているパターン

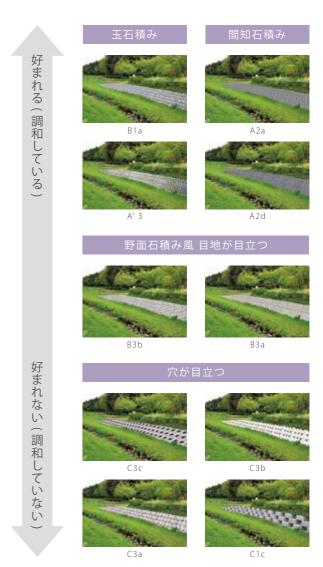


図1 要因の分析結果(郊外)

担当 / 藤森 琢 櫻井 玄紀 尾崎 正樹